

誰にでも睡眠不足や頭痛、気分の落ち込みなど心身が本調子でない時がある。そういう時は、仕事の生産性が下がりがちだ。何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、業務遂行能力や生産性が低下している状態を「プレゼンティーイズム」という。企業は従業員が出勤している限り、対価を支払わねばならない。しかし従業員が心身の不調により対価に見合う労働を提供できていなければ、そのギャップは企業の損失となる。企業がその損失に気づくことは容易ではない。第6回は、プ

職場におけるメンタルヘルスケア

⑥

生産性低下の可視化と個別対応

レゼンティーイズムを見る化することの意義と、個々の従業員の痛み・苦しみを目を向けることの重要性についてお伝えする。

職場のストレスには真摯に対応している企業も、従業員の個人的な理由によるストレスやその症状は対応範囲外と線引きをしていることが多い。しかし、

「従業員の生産性を低下させている要因は何か」という観点で考えると、従業員の個別の事情が絡んでくる。事業の継続と持続的な成

長のために、従業員のプレゼンティーイズム改善は企業の重要な目的となる。そのため、企業は従業員個人の痛みや不調に関わる必要がある。

だが、健康診断結果が悪くても、プレゼンティーイズムの程度が大きいとは限らない。血糖や血圧等の値にリスクがあっても、本人には実感がなからだ。つまり、「あなたは今の程度痛いですか？」という感覚は、本人に聞くことが難しい。従業員の健康データといえは健康診断結果が代表的な測定できる専用の

人の痛みや不調の程度は、外から伺い知ることができない。従業員の健康データといえは健康診断結果が代表的な測定できる専用の

プレゼンティーイズムを測定できる専用の



桜又 彩子

SOMPOヘルスサポート シニアゼネラル コンサルタント

詳細聞き取り症状改善



心身の不調の個別面談で不調の詳細を聞き取りながら健康指導や就業上の配慮をする、睡眠がうまくとれていないなら、対象者だけを集めてセミナーを行うなどが考えられる。

「身体の動きや移動に関する支障」の順番で影響が大きかった。は、社員のエンゲージメント（愛着心・思い入れ）は向上する。痛みや不調が消え仕事に集中できれば、仕事への満足度も上がる。生き生きと働く従業員が1人でも増えるように、プレゼンティーイズムの改善に積極的に取り組んでほしい。

生産性な

ツールがあるので、すべて正確に測れるのかトレスチェックや健康診断時に一緒に実施するなどとよい。どのような不調がある人を見つけて、個別に介入して症状を改善することで、イズムへの影響が大きいプレゼンティーイズムつかあるが、当社研究では、「メンタル面では、産業医や保健師と

(木曜日掲載)